

『78年前の歴史から学ぶ』

私は幼い頃から母の影響で、戦争について学ぶ機会がたくさんありました。ですが「今は平和だから自分には関係ない」と決めつけてしまい、自ら学ぶ姿勢を持てませんでした。小学生になり、授業で戦争について学ぶことが増えても現実味がなく、どこか他人事のように考えていました。

私の中で戦争に対する考え方が大きく変わったのは、中学2年生の時に行った沖縄研修旅行がきっかけでした。研修旅行の中で対馬丸事件の体験者の方にお話を伺いました。その方はお話の最後に「自然や心、言葉そして命。戦争は大切な全てのものを奪う。」と仰っていました。私はこの言葉を聞いた時に、戦争は自分に関係ないと思っていたことがとても恥ずかしくなりました。目の前には戦争で家族を亡くし、戦争で傷ついた方がいるということを実感し体が震えました。この思いを抱えたまま行ったガマは、狭くて暗く、戦時中本当に人が住んでいたとは信じられませんでした。その狭いガマの中には陶器の破片や弾痕がたくさん残っていました。私は陶器の破片を間近で見て、本当に人が住んでいたということを改めて認識したことで、初めて戦争を生々しく感じました。その時見た光景は今も鮮明に覚えています。

近年では、ロシアによるウクライナへの侵攻によって戦争が起こっています。この戦争は一般人をも巻き込み、今年の7月までで人的被害に遭われた方は1713万7千人以上となっています。その中で避難民は約1700万人です。とても多くの方が巻き込まれ、今なおこの戦争で家族を失った人や家族と会えないまま避難をしている人はたくさんいます。このことは、78年前の悲劇の繰り返しです。戦争という悲劇を繰り返さないために、私たちは歴史から学ばなければいけません。

今、私たちは学校で戦争について学んでいます。しかし、それだけで十分戦争について学べているとは思えません。例えば、私は守山市に住んでいますが、1945年に起きた守山空襲について学校で学ぶことはありません。空襲での弾痕が残る地蔵を、実際に見に行くこともありません。そのため、私の周りで守山空襲を知る人はいません。身近な被害について学ばずに、戦争を学んでいるといえるのでしょうか。このままでは、このような痛ましい記憶を知る人がいなくなってしまう。そんな事態は、平和な未来を築いていくためにあってはなりません。

戦争は二度と繰り返されてはいけません。

戦争で傷ついた心はもう二度と元には戻らない。

この先、戦争を風化させないために、未来を担う一員として、私は戦争と平和について学び、戦争の記憶と平和の大切さを語り継いでいきます。